

起草委員会資料1

小金井市長期計画起草委員会設置要綱

(設置)

第1条 第4次小金井市基本構想及び第4次小金井市基本構想・前期基本計画の策定に資するため、小金井市長期計画起草委員会（以下「起草委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 起草委員会は、次に掲げる事項について検討を行い、小金井市長期計画審議会（以下「審議会」という。）に提案を行う。

- (1) 第4次小金井市基本構想（素案）の修正
- (2) 第4次小金井市基本構想・前期基本計画（素案）の修正

(組織)

第3条 起草委員会は、小金井市長期計画審議会条例（昭和44年条例第6号）第7条の規定による専門委員である委員6人以内で組織する。ただし、起草委員会が認めた場合は、審議内容により委員以外の審議会委員が会議に参加することができるものとする。

- 2 起草委員会に委員長を置き、審議会会長をもって充てる。
- 3 起草委員会に副委員長を置き、審議会会長職務代理者をもって充てる。

(運営)

第4条 起草委員会の会議は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、起草委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議の公開)

第5条 起草委員会の会議は、公開とする。

(庶務)

第6条 起草委員会の庶務は、企画財政部企画政策課において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、起草委員会に関し必要な事項は、別に委員長が定める。

付 則

この要綱は、平成21年9月12日から施行し、審議会による第4次小金井市基本構想（素案）及び第4次小金井市基本構想・前期基本計画（素案）に係る答申の日限り、その効力を失う。

素案の骨格を考える上での各項目の要約(キーワード)

1. 策定の意義と役割→前文の概況や役割については、潮流や、3次の評価を踏まえた表現にすべき

潮流	第4次基本構想 社会潮流	第3次基本計画 社会的背景(参考)	} 3~4程度に絞ることはできないか？
	少子高齢化の進行/人口減少社会の到来	少子高齢社会の到来	
	地方分権の進展	情報化・国際化	
	市民ニーズの多様化	価値観の多様化・市民意識の変化	
	ボランティア・市民活動の活発化	安全・安心なまちづくり	
	経済状況の変化	環境問題の深刻化	
	情報化社会の進展	地方分権の進展	
地球規模の環境問題の深刻化	行政改革の推進		
	安全・安心への期待		

調査 (参考)	市民意向調査		市長への手紙(上位3つ)	小金井市民討議会2008
	住続けたい(上位3つ)	移転したい(上位3つ)	ごみ対策	小金井市の良いところ
	自然環境が良い	公共・公益施設が充実していない	高齢者福祉施策	住環境・自然環境が良い
	都心への交通の便が良い	買物が不便	健康・医療対策	市内外の交通の利便性が高い
	長年住みなれ、愛着がある	行政サービスが充実していない		地域の活力が高く、教育熱心
	重要度1.5以上かつ満足度0.3以上	重要度1.5以上かつ満足度△0.3以下		何が必要か
	緑と水の保全の拡大	道路安全性向上とバリアフリー化		行政サービスの充実(ゴミ問題、福祉・医療の充実、図書館サービスの改善・市民交流センターの実現)
	水道水の安定供給	ごみの減量・再資源化		商業と娯楽のバランス
		誰もが安心して子育てできる体制の整備		転入者や通勤者を含む地域交流
		財政の健全化		どんなまちづくりを目指すべきか？
小金井市の良いところ・将来なってほしいところ			市民が街づくりに主体的に参加	
水と緑がゆかたな自然環境と共生したまち				

課題	第3次基本構想の評価		市の現状	市の特徴
	達成度の高い項目	達成度の低い項目	課題(改善点)	(強み)
強み 弱み			人口・世帯数の状況	緑豊かな住環境
			都市基盤整備の進展	便利な市内外へのアクセス
			少子高齢化	充実した教育環境
			財政状況	活発な市民活動

施策	重点政策	施策の大綱	まちづくりの基本姿勢	将来像
	緑と水の保全・創出	みどりあふれる快適で人にやさしいまち(環境と都市基盤)	市民生活の優先	みどりが育つ・子どもが育つ・笑顔が育つ 小金井市
	ごみ問題・地球環境	ふれあいと活力のあるまち(地域と経済)	計画的なまちづくり	
	駅周辺開発	次世代の夢と希望をはぐくむまち(文化と教育)	市民自治による推進	指標
	公共施設・質的整備	誰もが安心してらせる思いやりのあるまち(福祉と健康)		住みやすさの向上
	歩いて暮らせる交通環境		財政状況(予測)	住み続けたいと思う市民の増加
活気ある商店街		危機的状況から一定の改善		
子供の成長支援		外部環境は厳しく計画的な行財政運営が必要		

新ごみ処理施設建設、駅周辺まちづくり、人口減少や施設の老朽化へ備える必要性あり

第 4 次小金井市基本構想(素案)前半についての意見

H21.9.6 鮎川志津子

第 4 次基本構想(素案)前半については、市民の方々にもわかりやすい素晴らしい構想と感じました。この素案通りで概ね良いと思っておりますが、私見を述べさせていただきます。

1. 「基本的な指標」について

下記の 2 つの評価指標が掲げられていますが、評価指標は、一つだけでも良いと思います。

評価指標 1 : 「小金井市の住みやすさ」の向上

評価指標 2 : 「小金井市に住み続けたいと思う市民の増加」

2 つの評価指標を掲げるのであれば、異なるタイプの指標を取り入れた方が良いかと考えます。(例えば、市民意向調査の中の「満足度」、客観的な別の調査など)

* 上記の評価指標は、2 つとも市民意向調査の中で、大変重要な項目であることは理解しております。

2. 「将来像実現のための 4 つの柱」について

③ 「次世代の夢と希望をはぐくむまち (文化と教育)」

将来像の「子どもが育つ」の実現に向けての柱であることと理解しましたが、「図書館・公民館などの生涯学習の場の充実を図り、・・・」と生涯学習についての記載の直後の次世代という言葉に若干違和感を覚えました。

事務局の口頭での御説明では、「次世代だけでなく全世代」とのことでしたので、私個人的には、納得しました。

ただ、学校教育は、次世代限定で良いと思いますが、生涯学習は、全ての市民の方々が対象であることがわかりにくいと思います。

例えば…

「学校における教育活動及び学習環境をさらに高めるとともに、図書館・公民館などの生涯学習の場の充実を図り、次世代の夢と希望をはぐくむまちづくり」



「学校における教育活動及び学習環境をさらに高め、次世代の夢と希望をはぐくむとともに、図書館・公民館などの生涯学習の場の充実を図り、みな希望をはぐくむまちづくり」

というような明記は、いかがでしょうか？

将来像や柱との整合性が崩れてしまうのでしょうか？

以上

長期計画審議会・基本構想（素案）前半への意見

H21.9.7

五十嵐京子

1. 審議会でも発言をしましたが、行財政運営を一つの柱にすることを提案します。
理由 ①市民との協働が不可欠になっており、市民にも市の財政の特徴を共通認識にすべき。
②地方分権が進むと、市独自で歳入を得る方法を進める必要が出てくると思うので。
③今井委員の意見にもあったように、大きく歳入のもととなる法人が少ない小金井なので、以下に工夫しながら歳入の確保をし、どこにお金をかけるべきかを、市民も一緒に考えていくべきと思うので。

2. 7pの4つの柱の③「文化と教育」のタイトルでは、子どもの教育だけと受け取られる心配があるので、例えば「ゆたかな人間性と次世代の夢をはぐくむまち」のように、市民の文化的な要素がわかるようなタイトルにしたらどうかと思います。

以上

「資料17 第4次小金井市基本構想(素案)前半」について

鴨下輝秋

1. 社会全体の潮流と小金井市を取り巻く環境(P.2)

社会潮流が8項目(討議要項における「踏まえるべき社会潮流」では9項目)では多いとの意見から全体を「人口・経済・市民・環境」の4つの観点から分類し直す試みをしました。

尚、ここでいう「市民」とは「市の住民」という意味ではなく、「国政に参加する国民」という広い意味で使用しました。また、一国の経済と政治は密接に結び付いており、経済の発展や減速は政治的諸要因に左右され、経済的諸要因は政治の決定に強い影響を持つなどの理由から、ここでの「経済」は政治を含めたものとして扱いました。さらに温暖化をはじめ、情報化、食料問題、国際問題、自然災害、犯罪などは我々を取り巻く環境として束ねましたが、⑧の安心、安全への希求は広い意味で全ての項目の底辺を流れているものと思われます。現象ではなく、現象の背後に生まれたものと捉えるなら削除すべきかとも考えましたが、ここでは取り合えず「環境」の項目に組み入れてみました。

①少子高齢化の進行/人口減少時代の到来

②地方分権の進展

③市民ニーズの多様化

④ボランティア・市民活動の活発化

⑤経済状況の変化

⑥情報化社会の進展

⑦地球規模の環境問題の深刻化

⑧安全・安心への期待

(⑨地域格差の拡大=この項は討議要項にはあるが、基本構想(素案)には含まれていない)

↓

1. 人口…「少子高齢化と人口減少」①

2. 経済…「経済構造の変化と地方分権」②⑤⑨

3. 市民…「市民活動の多様化」③④

4. 環境…「環境の利便性と問題」⑥⑦⑧

2. 小金井市の将来象(P.5)

「みどりが育つ・子どもが育つ・笑顔が育つ 小金井市」について

「これからの行政において市民協働は重要なキーワード…」あるいは「これからの協働のスタイルを模索する…」(長期総合計画に係る討議要綱P.10)とあるように計画の推進において「協働」という語が重要な位置を占めています。この点については既に渡辺先生から御発言があり、また町田委員などから同内容の意見が出されていますが、将来こんなスタイルで町づくりが進めば素晴らしいという方向性をより明確にするのであれば、「協働」の意味をふくませて、

「みどりが育つ・子どもが育つ・きずなが育つ 小金井市」

という表現もありうるかと思いました。ただし、前回竹内委員が述べられたように、コピーを考察した方の意思を全面的に尊重することが大切であり、個人的には全く異論のないところです。「笑顔」という語には将来を描くに十全な温かい願いのようなものを感じ取ることができました。参考程度に扱って頂ければ幸いです。

以上